

# 令和4年度 三重県精神保健福祉士協会 総会 記念企画 感想

南勢病院 中村 綾

○今回の研修において、他病院に勤めている先輩P S Wが「病院職員として、まずは成果を見せなければいけない」と話されており、その「成果」という言葉に、病院P S Wとして働くことの生々しさを感じ、共感することができました。

○今までソーシャルワークを行う中で、病院の運営・経営と、患者さんの利益に対するジレンマを感じることがありました。しかし他病院にも同様の考えがあり、その上で患者さんの支援をしていることを知ることができました。このことから自身の置かれた立場における、最善のソーシャルワークを行おう、と気持ちを切り替えることができました。

○また、牛場先生の「私たちは何のためにソーシャルワークを行うのか」という言葉が、心に残りました。改めて自分自身のソーシャルワークを振り返ると、「患者さん」だけではなく「家族」や「地域」「病院」など、様々な思いの狭間でソーシャルワークを行ってきたことに気が付きました。その後、「ミクロ・マクロ・メゾ」の話聞き、「目の前のクライアント」の視点、「病院や地域」の視点、「制度・政策」の視点など、問題を多角的に見ることで、本来自身が果たすべき目的を見失わず、P S Wとしての働きを行うことができるのではないか、と考えることができました。

○最後に、研修後に南勢病院P S Wで「自身の強みを活かして、今後どんなワーカーになりたいか」というテーマで話し合いを行いました。経験年数も所属も違うP S Wで話し合うことで、それぞれの強みや価値観などを再確認することができ、改めてP S Wとしてどうあるべきか、を深く考えるきっかけを得ることができました。今後もこの研修で得た知見を、ソーシャルワークに活かしていきたいと思えます。